

大阪大学工業会海外交流助成 「招聘報告書」

平成29年度 大阪大学工業会海外交流助成 活動報告書

大阪大学工学研究科 マテリアル生産科学専攻 田中 敏宏

2017年11月にドイツ・アーヘン工科大学教授・GTT-Technologies社長のKlaus Hack博士をお招きし、熱力学データベースを利用した材料設計に関する講演会を開催しました。

Hack博士は、世界的な規模で材料工学の分野において活用されている熱力学データベースとその応用ソフトウェアである「FactSage」の開発者のひとりで、計算熱力学の分野では著名な研究者のひとりでもあります。筆者が1989-1990年にアーヘン工科大学に滞在して以来の共同研究者でもあり、毎年来日されていますが、この度の滞在では、熱力学データベースを利用した各種材料設計の最新的话题を提供していただきました。特に、材料の製錬・精錬反応や、相平衡、凝固現象に関して、熱力学データベースを理輪して解析する手法や具体的な応用例の詳細についてお話いただきました。

また大阪大学滞在中は、若手研究者や学生との交流にもご参加いただき、大阪大学工学研究科との国際交流にも努めていただきました。

最後になりましたが、Klaus Hack博士の滞在に対し多々ご支援いただきました大阪大学工業会・海外助成事業（研究者招へい助成）に対し、心から御礼申し上げます。



写真：Klaus Hack博士による講演会の様子。

平成29年度 大阪大学工業会海外交流助成 活動報告書

大阪大学工学研究科 マテリアル生産科学専攻 鈴木 賢紀

2017年11月にドイツ・アーヘン工科大学・Alexia Petersen氏ならびにGTT-TechnologiesのStephan Petersenご夫妻をお招きし、異文化交流に関する講演会を開催しました。Alexia Petersen氏は、カナダ生まれですが、ご両親が台湾語出身で、20代でStephan Petersen氏とご結婚後、ドイツで生活され、アジア・北米・ヨーロッパの文化をよく御存じなので、理工系の分野の方々を対象とした異文化コミュニケーションの研究をされる傍ら、異文化交流アドバイザーをされています。日本人学生がドイツの大学に滞在すると講義では発言が少ないために成績評価が低い、筆記試験では逆に高い成績を修め、ドイツ人教授が困惑される際、ドイツと日本の文化の違いを説明されるなど、異文化間のコミュニケーションの円滑化を目指した活動をされています。またStephan Petersen氏も、材料科学の研究者・技術者の傍ら、Alexia Petersen氏とご一緒に、異文化交流活動を活発に展開されています。

このような視点からの異文化交流の理解は工学研究科の学生・教職員にとっても重要であり、この度のご夫妻のご来日の機会に特別講演をお願いしました。また大阪大学滞在中は、綿家研究者・学生との交流にもご参加いただき、大阪大学工学研究科との国際交流にも努めていただきました。

最後になりましたが、Alexia & Stephan Petersen夫妻の滞在に対し多々ご支援いただきました大阪大学工業会・海外助成事業（研究者招へい助成）に対し、心から御礼申し上げます。



写真：Alexia & Stephan Petersen夫妻による講演会の様子。